
言語景観に関する社会言語学的基礎研究Ⅱ

尹 亭仁／彭 国躍

中国語関連の研究成果は以下のようにまとめる。

(1) 発表論文：「近代上海言語景観の生態言語学的類型—ことばの選択、接触とアイデンティティ—」『人文研究 (203)』神奈川大学人文学会 2021年。

本論文は、主に生態言語学の視点から近代上海の言語景観における中国語、英語、ロシア語、ドイツ語、日本語、フランス語を含む多言語接触の実態を記述し、オーナーのアイデンティティの形成プロセスに基づき、それぞれの店舗に現れた言語景観を3つの類型(言語維持型、言語融合型、言語交替型)に分けて分析した。そして、民族人口学、民族政治学の側面から証拠となる人口統計データを示しながら当時の言語生態に影響を与えた社会的環境因子について考察した。

(2) 資料収集：①上海の外に、広東、杭州、新疆、蘇州、大連、香港などを含む百年前の中国各地の言語景観の写真資料が収集できた。今後これらの資料を使って、歴史的横断研究を展開することが可能となった。②9～19世紀、つまりカ

メラが発明される以前の中国の都市言語景観資料を、一部絵画を通して収集することができた。これにより古代中国の言語景観の研究に関するおおよその見通しが立った。③横浜中華街の形成に関する歴史文献や写真画像の収集を行ってきたが、収集された資料は今後横浜中華街の言語景観の通時的研究に活かすことができる。(文責：彭国躍)

韓国語関連の研究成果は以下のようにまとめる。

(1) 発表論文：「日本における韓国語の言語景観と活用の可能性 (1) —韓国語の漢語語彙力の向上の観点から—」『神奈川大学言語研究』43号、pp.1-34.

本稿では、数年にわたり東京・横浜をはじめ京都・福岡・熊本・富山・石川などで集めてきた調査資料を、とりわけ日本語と韓国語の漢語の対応に注目し、分類・分析を行なった。1千枚以上の資料から、<図1>と<図2>のように日韓両言語で対応している漢語を生かす取組みを提示、その有効性について論じた。

投稿中の「日本語母語話者に韓国語の2字漢語



図1 精算機：정산기（横浜駅）



図2 国内線：국내선（福岡空港）

動詞を体系的に提示するための取組みについて」では、韓国語の2字漢語動詞の体系的習得に言語景観が1つの教材として役立つことを論じた。漢語は両言語の語彙において約半分を占めているため、量が膨大である。漢語動詞に焦点を絞った場合、漢語動名詞に接続する「する」がタグとして機能するため、見つけやすい、まとめやすいという利点がある。両言語には共通する漢語が多いため、応用がしやすいことにも触れた。

（2）本学の韓国語共通初級テキストでの活用：<図3>は本学のみなとみらいおよび横浜キャンパスで使用する韓国語初級共通教材の一部である。クラスによっては、このような対応を示す他

の漢語動詞を集めてみるよう課題を出し、学習者の実践と教育的効果を試みている。

（3）今後の課題：①今まで集めた言語景観資料に追加調査および韓国での関連する資料を加え、韓国語の文法の理解力の向上について論文にまとめる予定である。②日本の言語景観にみる韓国語の表記上の不一致、動詞の活用形の誤用、外来語のずれなど様々な問題についても論文に反映していく。③日本での言語景観の資料に、ソウル、北京、台北での調査資料をまとめ、「漢字文化圏の言語景観の比較」も試みたい。

（文責：尹亭仁）



【 전부 하네다공항에서 촬영(撮影) 】

図3 みなとみらいおよび横浜キャンパスの韓国語初級Ⅱa・Ⅱb共通教材より